

# 男が共働きレポート 自分を生きる、今を生きる。

男の人が家事をすることに  
抵抗はありませんでしたか？

私は両親と兄弟8人の10人家族で育ちました。しかも、終戦直後の食料不足の時代でした。食事は5升釜で作るので、中学生の私が台所から食卓までその釜を運ぶのが一家の中の私の役割でした。それが始まりだと思います。母のことが大好きで何でも手伝いをしました。ミシンかけや、靴下の縫い、うどん打ちなど見様見真似で覚え、面白かったです。母は、「男の子が台所に入るとは言うものの嬉しい、助かる、助かる」と喜んでくれました。今、楽しみにながら家事をしているのは何故かと考えたら、そこが原点でした。

共働きしているときはどうでしたか？

結婚しても、これは女の仕事、男のすることじゃないとか全然考えませんでした。私はその時出来る人が、出来ることをやれば良いという考え方でやって来ました。現在は妻が現役で、私が家にいるので食事作りは買物から私の仕事です。家の中で自分のする仕事がある事は楽しい事です。家事全般



をしているのではなく、掃除洗濯は妻と義母がしています。料理を作り妻においしいと言われると、この次はもっとおいしいものを作ろうと思うのです。相手が喜んでくれる程嬉しいことはありません。料理がおいしい時は、作ってくれた方に喜んでその事を伝えるのが大切です。子ども達にも年齢、男女に関係なく「出来ることをどんどんしなさい」と言っていて育ててきました。

紙飛行機との関わりは？

小学校5、6年の頃、ゴムでプロペラをまわして飛ばす飛行機の大会で優勝し、とりこになり、そ

れ以来一人で作り楽しんでいましたが、5年前大分紙飛行機友の会に入会し、仲間とともに交流をし活動しています。この

会は設立8年で会員は30数名います。3年前から事務局長をしています。紙飛行機は、大きく分けると、折り紙飛行機、切り紙飛行機、紙飛行機の3つがあります。現在は11月にある全国大会に向けて準備をしています。今作っているのは、全国大会に持って行くジャンボ機という種類の6メートルの紙飛行機です。これは走って手で投げて飛ばします。去年は59メートル飛ばし全国で2位でした。今年70メートル飛ばすのが目標です。



うな状態であれば趣味はやるべきだと思います。人間生きていくというのは、「現時点が最高であればいい」のではないかと思います。

いつの年代であっても、自分がしたいこと、とを我慢して生活するというのは精神的にも、悪いことだと思います。5年先にしようと思っても命があるかどうか、世の中も変わっているかも知れません。やろうと思つたらやれることは今すぐ始めたほうが良いと私は考えています。

今後の計画は？

退職後の自分の生き方についていつ頃から考えましたか？

退職2、3年前から、辞めたら何をしたら生き甲斐を感じるかなと考えていました。今は好きなことばかりしていますが、退職したからすぐには必要ではなく、普段からの積み重ねが必要で、仕事をしながら、本業に影響がないよ

妻が退職したら旅行をしたいです。そのためには健康維持、保持です。それにはバランスの良い食生活と適度な運動だと考えていますので、料理を考え作ること、歩きの多い紙飛行機を飛ばすことは効果的です。寝込んだら面白くないですから、健康であれば何でも出来ます。今生きているのだから、今出来ることをする。この世に生を受けて一度しかない人生を、ああしておけ

男女共同参画社会についてどう思いますか？

「今更そんなこと言わなくても」と思います。今平等になり過ぎて弊害があるとすれば、自分の都合のいいとき男女平等と言い、都合の悪いときは男が力仕事をするべきだとか、使い分けている節もあるのではないかと思います。

PROFILE

町田 憲治郎さん 1934年生まれ、Kenjiro Machida 妻と義母と3人暮らし

教職退職後、現役で働く妻に代わり家事を中心にして、趣味を活かし充実した人生を過ごしています。

- 趣味/紙飛行機・魚釣り・ギター・ドライブ
- お助け料理/ゴーヤとシーチキンの卵とじ・ハンバーグのトマト煮詰とキノコのホイイル焼き(カボスをかけると美味しい)
- 大分市紙飛行機友の会事務局長

